

# 十五歳の選択

## ☆ 「選択」ということ

小学校から中学校に入学するときは、特に「入学試験」はありませんでしたね。しかし、中学校を卒業した後は、自分で「進路」を「選択」しなければなりません。もちろん、保護者の方と相談して決めることとなりますが、「十五歳」は自分で自分の将来を決めなければならない年齢なのです。

「あと一年後…」と思っているかもしれませんが、実際はほとんどの人が受験する私学入試は、12月中旬には受験校を決定していなければなりません。なんと、あと8ヶ月です。

かなり前のこととなりますが、先生たちの間で「十五の春を泣かせるな」という標語が流行したことがありました。その頃は、高校の数が少なくて、定時制などを含めても、すべての生徒が高校教育を受けられない状況でした。そこで、高校の数を増やすように運動して、十五歳の春に高校へ行きたくても行けずに泣く生徒を無くそう、という意味の標語だったのです。

中学生に幸せな進路を選んでもらいたいという先生たちの思いは変わりません。

しかし、時代は変わり、多くの問題を抱えてはいますが、現在、数の上ではほとんど全員が高校に進学できる時代になりました。

また、以前は、普通科・工業科・商業科・農業科・定時制ぐらいしかなかった公立高校にも、本当にいろんな学科ができました。私学では各校が工夫を重ね、多様な教育を展開しています。これから各高校でオープンスクールが開かれるので、ぜひとも足を運んでみてください。

そこで重みを持つのが「選択」、つまり、いろんなものの中から自分に一番ふさわしいものを選ぶ、ということです。

君たちの中には、もう進路先を決めているという人もいるかもしれませんが。そういう人はあなたの夢を実現する為に、オープンスクールに積極的に参加してみてください。また、まだ進路先を決めていないという人も、慌てなくても大丈夫です。オープンスクールに参加したり高校について調べたりすることで、やりたいことや行きたい高校が見つかるかもしれないからです。もしかしたら君たちの知らない進路先の中に、一番ふさわしい進路があるかもしれません。だから、進路について学習する必要があります。

また、「選択」するためには、なんのためにその進路先を選ぶのか、ということが大切です。自分の人生にとって本当に一番よい進路なのか、じっくり考えることが必要です。

現在は十四歳の人もいるでしょうが、次の進路先に進む四月には、全員十五歳になっています。十五歳の君たちが、最高の進路先を「選択」できるように、君たちや保護者の皆さんとも協力して、先生たちはこの一年間頑張ろうと考えています。一度きりの人生なので後悔しない、納得できる進路を見つけられるように一年間歩いていきましょう。

## ☆ 君たちに考えてほしいこと

これから一年間、進路についてのHRをしてもらうこととなりますが、先生たちは中学卒業後の進路先を決めるだけでいいとは考えていません。次のようなことを全員が真剣に考えて、最終的にそれぞれが最高の「選択」をしてもらいたいと思います。

- 1、自分の人生・生き方について考えること。
- 2、自分の個性を大切に、自分のいろんな可能性を考え、追求すること。
- 3、社会や職業についていろんなことを知り、しっかり考えること。
- 4、進路先について、いろんな情報を集め、何が自分にふさわしいか考えること。
- 5、そして、最終的に、自分で進むべき道を選択し決定すること。

## ☆ いろんな人と話し合おう

これから一年間、基本的には担任の先生と教育相談・懇談を重ね、進路先を決定していきます。君たちにするアドバイスは、担任の先生だけで決めたものではなく、一人一人について学校全体で考えた結果です。いろんなことを担任の先生と話し合ひましょう。

また、君たちにはそれぞれかけがえのない友人がいるはず。正しい情報を交換しあったり、思いや悩みを話し合ったりすることは大切なことです。もちろん、クラスでもいろんなことを話し合っほしいと思います。

そして、君たちにとって最高の相談相手は保護者です。進路について、今のうちから志望校やなぜその高校に行きたいのか等、いろんなことを家庭で話し合う習慣をつけましょう。

## ☆ 保護者の皆様へ

「十五歳の選択」は、進路についての情報提供を目的として、不定期に発行します。進路選択の一助になれば幸いです。これから一年間よろしくお願いいたします。

通信では生徒だけではなく、保護者の皆さんのいろいろなご意見も紹介していきたいと考えていますので、進路に関するご意見・ご質問をどんどんお寄せください。

また、これからの1年は提出書類等、様々なご協力をお願いすることとなります。お忙しい中ではございますが、よろしくお願いいたします。